

令和7年度 大田区立雪谷小学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

児童数703人。学級数通常級22学級、特別支援級4学級。目指すこども像を「笑顔になり、笑顔にさせ、生き生きと学ぶこども」と掲げ、その実現に向けて日々の教育活動を行っている。校内研究は国語科の「話すこと・聞くこと」で行い、互いの考えのよさを認め合い、自分の言葉で表現できる児童を育む話し合いの学習の実践に取り組んでいる。異年齢集団、通常級と特別支援級など、こどもたち同士の交流活動を充実させるとともに、一人一人に寄り添い誰一人取り残さない指導体制づくりを目指す。若手教員や経験の浅い教員の比率が高いため、OJT研修等を通して指導力の向上に努める。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童の自己評価において、「学習の中で、タブレット端末を使うことは、自分の勉強に役立っている。」と答えた児童の割合	4: 90%以上	・令和7年度新設の独自教科「おたの未来づくり」が5・6年でスタートした。授業パートナーからの依頼を受け、調査・対話・発信を通して解決策を考える学習を進めた。そして、他者と協働しながら自分たちの考えを形にする力を伸ばすことができた。  ・次年度の「おたの未来づくり」の授業実践に向け、今年度以上に地域の方の思いや願いに触れながら考えを深め、対話や発信を通して実社会とつながる学びへと深化させていくことが必要である。  ・さまざまな教科でICT機器を活用することができた。調べたいことをすぐに調べることができたり、自分の考えを整理したりしやすいと感じている児童が多い。また、資料を見比べながら考えたり、考えたことをオンラインにまとめて発表する活動を通して理解が深まったと感じている児童が増えた。  【回答児童数：231名】	A	7	・授業支援ソフトを活用することにより、思考の幅が広がり、児童同士の対話や発信が活発になることは、良いことだと思います。併せて、便利なツールに頼りすぎないこと、ITの使い方、AUの活用ルールなどのリテラシーを身に付けていってほしいと思います。  ・高学年では、グループや個人でタブレットを使って調べ、写真を挿入し、自分の考えをまとめて発表という学習が大変よくできていて感心しました。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 85%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 80%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 80%未満				
お世個 お界別 た目 を標 担な2 うが 人国 材際 育都 成市 し す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.3	児童の自己評価において、「友達と仲良く楽しく生活できている。」と答えた児童の割合	4: 90%以上	・今年度は、中学年以上で外国語教育指導員とALTを活用した授業を実践することができ、英語力やコミュニケーション能力の向上につながった。低学年は、外国語教育指導員が教材を作成したり授業のアドバイスをしたりし、担任がT1でもALTと連携しながら工夫した内容で授業実践をすることができた。  ・生活指導部を中心に「花開く、笑顔とあいさつ雪谷小」というキャッチフレーズのもと、あたたかい言葉遣いと、笑顔あふれる挨拶を心掛ける取り組みを行った。それにより、友達同士の声掛けが増え、気持ちよく関わろうとする姿が見られた。  ・学校行事や教科の学習でスクールサポート雪小をはじめ、地域の方々に授業支援に入ってもらった。また、今年度は6年で狂言鑑賞教室を実施し、我が国の伝統文化に触れる機会を設けた。これらのことが、地域社会や国際社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していくことにつながっていくので、今後も継続して行っていきたい。  【回答児童数：231名】	A	7	・日本の伝統文化に触れる機会は、とてもよいと思います。事前・事後の学習と併せて、学びを深めていってください。  ・ALTの先生のネイティブ英語を聞き取り、質問に答えている児童を見て、英語力やコミュニケーション能力が確実に向上していると感じました。外国語教育指導員とALTの2人体制の授業は児童にとって安心感があると思います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 85%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 80%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 80%未満				
た一個 め人別 の目 基標 礎り3 が個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.1	児童の自己評価において、「少人数グループでの算数の勉強は自分に合っている。」と答えた児童の割合	4: 85%以上	・特別の教科道徳において、価値理解を深める学習は実践できていたものの、授業後にその学びを日常生活の場面で意識させ、行動として定着させる働きかけが十分でなかった。今後は、日常場面で結び付けた問い返しや振り返りを意識的に取り入れていきたい。  ・算数習熟度別学習は、4学級6展開や少人数習熟度別学習など学年や児童の実態に応じて、さまざまな形態で実施したことが児童の満足度につながったと考えられる。  ・年に2回の「元氣もりもり週間」、6月の「歯磨きカレンダー」など、親子での取り組みを通し、基本的な生活習慣の確立に役立っている。  ・年3回の小中一貫教育の会では、連携校の雪谷中学校と池雪小学校と輪番制で授業公開を行っている。9年間を見通した指導や生活指導の共通理解を図り、小学校から中学校への円滑な接続ができるようにしている。  【回答児童数：231名】	A	6	・小中の9年間を雪谷中学校と連携して共通理解を図り、円滑な接続ができていることは、児童も保護者も心強いと思います。  ・教科学習以外の時間、(道徳も教科ではありませんが)心身共に健やかに育つ礎だと思います。引き続きの取り組み、よろしく願います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 75%未満				
た一個 め人別 の目 基標 礎り3 が個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.2	児童の自己評価において、「少人数グループでの算数の勉強は自分に合っている。」と答えた児童の割合	4: 80%以上	・算数習熟度別学習は、4学級6展開や少人数習熟度別学習など学年や児童の実態に応じて、さまざまな形態で実施したことが児童の満足度につながったと考えられる。  ・年に2回の「元氣もりもり週間」、6月の「歯磨きカレンダー」など、親子での取り組みを通し、基本的な生活習慣の確立に役立っている。  ・年3回の小中一貫教育の会では、連携校の雪谷中学校と池雪小学校と輪番制で授業公開を行っている。9年間を見通した指導や生活指導の共通理解を図り、小学校から中学校への円滑な接続ができるようにしている。  【回答児童数：231名】	B	1	・小中の9年間を雪谷中学校と連携して共通理解を図り、円滑な接続ができていることは、児童も保護者も心強いと思います。  ・教科学習以外の時間、(道徳も教科ではありませんが)心身共に健やかに育つ礎だと思います。引き続きの取り組み、よろしく願います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 75%未満				
た一個 め人別 の目 基標 礎り3 が個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.1	児童の自己評価において、「少人数グループでの算数の勉強は自分に合っている。」と答えた児童の割合	4: 80%以上	・算数習熟度別学習は、4学級6展開や少人数習熟度別学習など学年や児童の実態に応じて、さまざまな形態で実施したことが児童の満足度につながったと考えられる。  ・年に2回の「元氣もりもり週間」、6月の「歯磨きカレンダー」など、親子での取り組みを通し、基本的な生活習慣の確立に役立っている。  ・年3回の小中一貫教育の会では、連携校の雪谷中学校と池雪小学校と輪番制で授業公開を行っている。9年間を見通した指導や生活指導の共通理解を図り、小学校から中学校への円滑な接続ができるようにしている。  【回答児童数：231名】	C	0	・小中の9年間を雪谷中学校と連携して共通理解を図り、円滑な接続ができていることは、児童も保護者も心強いと思います。  ・教科学習以外の時間、(道徳も教科ではありませんが)心身共に健やかに育つ礎だと思います。引き続きの取り組み、よろしく願います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 75%未満				
た一個 め人別 の目 基標 礎り3 が個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3.1	児童の自己評価において、「少人数グループでの算数の勉強は自分に合っている。」と答えた児童の割合	4: 80%以上	・算数習熟度別学習は、4学級6展開や少人数習熟度別学習など学年や児童の実態に応じて、さまざまな形態で実施したことが児童の満足度につながったと考えられる。  ・年に2回の「元氣もりもり週間」、6月の「歯磨きカレンダー」など、親子での取り組みを通し、基本的な生活習慣の確立に役立っている。  ・年3回の小中一貫教育の会では、連携校の雪谷中学校と池雪小学校と輪番制で授業公開を行っている。9年間を見通した指導や生活指導の共通理解を図り、小学校から中学校への円滑な接続ができるようにしている。  【回答児童数：231名】	D	0	・小中の9年間を雪谷中学校と連携して共通理解を図り、円滑な接続ができていることは、児童も保護者も心強いと思います。  ・教科学習以外の時間、(道徳も教科ではありませんが)心身共に健やかに育つ礎だと思います。引き続きの取り組み、よろしく願います。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 75%未満				

<p>個別 校力 ・標 教 4 師力を 向上 させ ます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3.1</p>	<p>児童の自己評価において、「自分の考えを授業の中で伝えている。」と答えた児童の割合</p>	<p>4:70%以上 3:65%以上 2:60%以上 1:60%未満</p>	<p>3</p>	<p>・今年度は、OJTで、特別の教科道徳の学年研修を計画的に実施し、発問や板書、評価の視点の共通理解をすることで授業の質の向上につながった。 ・校内研究では、「互いの考えのよさを認め合い、自分の言葉で表現できる児童を育む話し合いの学習～国語科における話す・聞く活動に着目して～」という研究主題で、年6本の授業研究を行った。校内研究を通して、お互いの考えを尊重しながら考えを深める児童の姿が見られた。 ・大田区研究推進校研究発表会を中心とした各種研究発表会、区教研所属部会での授業研究へ参加し、指導力向上を目指して個々の教員が研鑽を積んでいる。今後も継続し、日々の授業改善に生かしていく。 【回答児童数:231名】</p>	<p>A 5 B 2 C 0 D 0</p>	<p>・先生は教室(クラス)内では「一人」ですが、チームで指導している意識を全員の先生方が持っていていただきたいですね。「ONE TEAM雪谷」でよろしく願います。 ・先生方が、校内研究等でOJTの実施やさまざまな授業研究に参加され、指導力の向上や日々の授業改善に邁進されていることはありがたいです。 ・自分の考えを授業中に伝えることができる児童が増えているように感じます。</p>
<p>個別 の学 びを い き 支 援 し ま す</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>児童の自己評価において、「自分にはよいところがある。」と答えた児童の割合</p>	<p>4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:75%未満</p>	<p>3</p>	<p>・6月・11月のふれあい月間において、全学年で学校生活調査と、3年生以上でQ-Uアンケートを実施した。結果をもとに個別聞き取りを行い、情報の共有と共に、組織的な対応を実施した。 ・週に1回の生活指導会で情報を共有することができた。学年・学級を超えて、全教員における児童理解が深まった。 ・いじめの早期発見に努め、いじめ不登校対策委員会やいじめケース会議を発足し、組織的に迅速に対応した。 ・校内委員会を通し、サポートルーム教員やSCとの連携を図りながら、支援が必要な児童についての情報が共有できた。校内における特別支援教育も継続して充実させていく。またほのぼののルームを中心とした個別支援も継続していく。 ・関係諸機関と連携し、児童や保護者が安心して学校や家庭、地域社会で過ごせる環境作りの支援を行っている。 【回答児童数:231名】</p>	<p>A 5 B 2 C 0 D 0</p>	<p>・全教員が、学年・学級を超えて、情報共有されていることや、サポートルーム教員やSCとの連携、ほのぼののルームでの個別支援など、児童は自分らしく生き生きと学べることができていると思います。 ・誰も特別扱いしない、そこに居る事があたり前、インクルーシブ教育には保護者の意識改革の方が重要だと思っています。児童だけでなく、保護者、地域も巻き込んで取り組みをしていく必要があると思います。</p>
<p>柔軟 な目 的を 創 造 的 な 学 習 空 間 と 安 心 ・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3.2</p>	<p>「学校は児童が安全・安心に学校生活を送るための環境をつくっている。」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満</p>	<p>4</p>	<p>・日々の校内巡視、毎月の安全点検や各学期毎の一斉安全点検を確実に、校内の環境整備に取り組んでいる。 ・年度初めの早い時期に、コース別下校訓練や保護者の引渡し訓練、不測の事態に備えた雪谷中学校への二次避難訓練を行い、災害時における避難行動を指導している。また、起震車体験、煙体験、不審者侵入時における対応等、関係機関と連携しながら危険や災害に対する教育を計画的に行っている。 【回答保護者数:239名】</p>	<p>A 7 B 0 C 0 D 0</p>	<p>・児童は災害時に備えるには、さまざまな訓練を真剣に取り組んでいた。安全教育、防災教育がしっかり身に付いていると思います。</p>
<p>個別 校力 を コ ミ ュ ニ ティ の 核 と し て の 協 働 に よ る</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3.1</p>	<p>「学校は地域の力を教育活動に生かしている。」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満</p>	<p>3</p>	<p>・今年度も、夏・冬のわくわくスクールや雪小お話し会ムテによる読み聞かせ等、充実した内容で実施することができた。 ・学校公開や運動会の行事では、今年度も受付や参観者の交通整理、ライブ配信等、PTAや地域の協力を仰ぎながら円滑に実施することができた。 ・児童の通学時間の旗振りボランティアも継続して行っていただき充実している。今後も、学校、家庭、地域との連携を強化し、心も体も健やかな児童を育てていく。 ・スクールサポート雪小の方々に、家庭科の実習や校外学習のボランティア、地域人材と学校をつなぐサポートを依頼することができた。支援体制の充実が学習活動の充実につながった。 ・おたの未来づくりでは、地域人材の方々に授業パートナーになっていただき、地域の特色を生かした単元開発、授業実践を行うことができた。 【回答保護者数:239名】</p>	<p>A 5 B 2 C 0 D 0</p>	<p>・学校と保護者と地域の方々と共に児童が安全で安心して学べる学校にしていきたいと思っています。多くの地域の方々が多岐にわたって児童を見守り、サポートできる体制を構築していきたいです。 ・雪小のCS化を含め、更なる取組を期待しています。 ・成果評価4で良いと思います。</p>